

外来診療時間

| 診療科目 | 診療時間 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|-------------------|-------------|---|---|---|---|---|---|---|
| 精神科・心療内科 (予約制) | 9:00-12:00 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × |
| | 13:30-17:00 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × |
| 内科 | 9:00-12:00 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × |
| | 13:30-17:00 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × |
| 神経内科 | 9:00-12:00 | × | × | × | × | × | × | × |
| | 13:30-17:00 | × | × | × | × | ○ | × | × |

休診日：日曜日・祝日・お盆（8/14-16）・年末年始（12/29-1/3）
 ※診療時間終了の30分前を目安に受付をしてください。

アクセス



- ・JR山陽本線「新井口駅」下車、徒歩3分
- ・広電「商工センター入口駅」下車、徒歩3分
- ・お車 西広島バイパス「商工センター方面」に降りて3分



草津グループ 施設一覧

| | |
|---------------------------|------------------|
| こころホスピタル草津（日本医療機能評価機構認定） | Tel 082-277-1001 |
| 相談支援 ここコンシェル | Tel 082-278-1294 |
| 訪問看護ステーション こころーれ草津 | Tel 082-277-2062 |
| 訪問看護ステーション こころーれ古市 | Tel 082-831-0666 |
| 訪問看護ステーション こころーれ廿日市 | Tel 0829-32-3216 |
| 自立訓練（生活訓練）ここリビング | Tel 082-279-5004 |
| 就労移行支援・就労継続支援B型 ここジョブ | Tel 082-277-1279 |
| 就労移行支援・就労継続支援B型 ここジョブ草津本町 | Tel 082-961-6991 |
| 広島市受託事業 | |
| 広島市西部認知症疾患医療センター | Tel 082-270-0311 |
| 広島市西区障害者基幹相談支援センター | Tel 082-270-1249 |



医療法人社団更生会
 こころホスピタル草津
 〒733-0864 広島市西区草津梅が台10-1
 Tel 082-277-1001 Fax 082-277-1008
 E-mail info@kusatsu-hp.or.jp



こころホスピタル草津 病院案内

<https://www.kusatsu-hp.jp/>

いつも、あなたのそばに

長く続く人生。進むときも、ひと休みするときも、
あなたの毎日にそっと寄り添いながら、
こころホスピタル草津はこのまちで、あなたのこころのそばにいます。



何かあったとき
「こころホスピタル草津がある」と
思ってもらえる病院に

当法人は、救急急性期から患者さんの地域での自立に向けた医療を総合的に行ってまいりました。精神科医療の目指すべき所は、他の診療科と同じように病状が良くなれば医療から離れ、同年代の方と同等な生活を送れることと考えています。しかし精神科医療においては、他の診療科と比べ、治療半ばでドロップアウトしてしまう患者さん、また地域には無治療の患者さんがたくさんいらっしゃいます。私は過去、災害派遣精神医療チームに参加した経験から、社会的弱者の方や地域の医療ニーズに日頃から耳を傾けることが大切だと考えています。今後も、当法人は「地域のニーズを受け止め、精神科医療からの卒業を目指す」をコンセプトに運営を行ってまいります。

医療法人社団更生会こころホスピタル草津
理事長・院長

佐藤 悟朗



救急から地域生活まで、様々な医療・福祉サービスが
連携して皆さんを支えます

1933年の開業以来、当法人は精神科救急・急性期治療からリハビリテーション、地域生活支援に取り組んでまいりました。草津グループは、今後も地域のニーズを受け止め、患者さんの生活全般を支えるため、地域と病院・各事業所の連携機能をさらに強化してまいります。

地域生活支援では、障害のサポートや現状の生活維持だけでなく、長期的な視点で社会生活の満足度や充足度を向上させるための支援を行っています。地域とのつながりを大切にしながら患者さんのトータルサポートに取り組んでいます。

施設について



総合待合



地域支援センター



病室



診察待合



ストレスケア病棟



病棟デイルーム

こころを休める環境を

明るい光が差し込む館内は、ごゆっくりお過ごしいただけるよう、落ち着いた色合いの家具を配置し、病院らしさをあまり感じさせない雰囲気となっています。

本館3階には、誰でも気軽に訪れ、相談できる「地域支援センター」や、地域のイベントなどにも使っていただける「多目的ホール」を設けております。



多目的ホール
ご利用のお申し込みはこちら



外来スタッフ
ステーション



多目的ホール

治療について

草津グループでは、疾患に対して最新の診断治療システムを取り込んでいます。さらに、より先の段階を見つめて、「できる限り年齢相応の健康的な生活レベルの確立や、人としての成長を目指す」事を目標とし、その流れの中に治療が存在すると考えています。



主な疾病と治療の流れ

うつ病・双極性障害(双極症)

プライバシーの保たれたストレスケア病棟への入院から外来を通して行う心理教育プログラムによって、疾患の知識や対処法を学び、回復を目指します。



認知症

認知症には様々な病態があります。どのタイプの認知症か診断する事は、その後の治療、対応、予後に大きな影響を与えます。当院では主に、広島市西部認知症疾患医療センターにて診断や初期対応を行い、必要に応じて薬物治療やリハビリテーション、介護・福祉サービスの導入を行っています。



統合失調症

統合失調症は、治療継続と再発・再入院を予防していくことが大切です。当院では治療を長期的な視点でとらえ、薬物治療や病氣と向き合うための心理教育プログラムの他、就労して社会的に自立するまでの支援等を行っています。



依存症

アルコールや薬物、ギャンブルやゲームなどの依存症は「孤立の病」とも呼ばれ、安心して話せる居場所の確保と、医療と継続的につながり続けることが大切です。同じ問題を抱える患者さんと一緒に自分を振り返り支え合うプログラムで依存と向き合っていきます。



薬物療法

脳の活動は、神経伝達物質により調整されています。様々な理由でそれらの物質のバランスが崩れるところの病気を発症しますが、薬はそれらのバランスを整えるためのものです。当院では、医学的根拠に基づき、世界的に推奨された薬物療法が提供できるよう努めております。



当院における薬物療法の方針

- 1 単剤処方**
シンプルで、日々の服薬がおこないやすい剤形の処方を目指します。不要な薬物が処方されていないか常に処方を確認し、同じ疾患の薬剤はできるだけ1種類しか使わないようにします。
- 2 最新の薬物療法を提供**
当院では、本邦で発売されている新規精神疾患治療薬を取り揃え、共同意思決定などを取り入れながら、適切な医療と患者さんのニーズの両方を満たす処方に近づける工夫をしています。
- 3 副作用を最小限に**
一人ひとりの疾患や症状に合わせ、最大限の効果が得られ、かつ副作用を最小限にとどめる最適な処方を目指します。



当院の薬剤課の取り組み

共同意思決定 (SDM: Shared Decision Making)

患者さんと医療従事者が協力して医療に関する意思決定プロセスです。患者さんが治療に積極的に関与できる環境を作り、服薬の継続や効果を高めることを期待しています。当院はSDMを積極的に導入し、治療へ満足していただけるよう努力しています。

服薬の自己管理について

服薬拒否、紛失、過量服薬の危険性など様々な理由により、多くの精神科病院では、入院患者さんの薬がスタッフに管理されているのが現状です。早期の退院支援が必要とされている現在、退院後の服薬管理については入院中から手厚い支援を行う必要があります。薬剤課では、様々な管理方法を用いて、患者さんが主体性を持って行動する力を高めるための支援を整備しています。

退院時薬物サマリーの作成

薬剤師が入院患者さんから得た情報を、退院後の医療機関に提供しています。入院中に患者さんから得た薬に関する基本情報(アレルギー歴、禁忌歴、副作用歴など)、治療過程、服薬状況、薬の管理情報、退院先への申し送り、検査値などを記載しています。



リハビリテーション



リハビリテーションは、他者との交流を通して、「医学」「社会」「教育」「職業」のそれぞれの区分が組み合わさり、総合的に提供されるものです。精神科リハビリテーションは、活動を通して意欲や自信の回復、認知機能の向上を目指し、地域の中に生きがいや役割をもった生活ができるように、作業療法から精神科デイケアまでの一貫した治療プロセスを通して個々の成長を促す支援です。

作業療法 (OT)

精神科作業療法 (OT) は、入院中の心身の安定のため、運動プログラムや心理教育プログラムを組み合わせ、退院に向けて助走をつける不可欠なリハビリテーションの1つです。



デイケア (DC)

通所リハビリテーション

精神科デイケア (DC) は、ストレスを抱えながらも自らが回復する力や、仲間同士で支え合い、希望や夢を分かち合う施設です。疾病があっても充実した日が過ごせるよう「自信を付ける」支援を行っています。



復職支援 (リワーク) プログラム

休職中の方の職場復帰をサポートするプログラムです。復職の基盤となる規則正しい生活習慣の獲得、休職原因の振り返りや対人関係トレーニング、復職に向けて職場との調整等に取り組み、職場復帰を支援します。



就労支援プログラム 就労移行支援・就労継続支援B型 ここジョブ

就労に必要な体力、知識、チャレンジする気持ちを高めていくために、基礎的な知識の獲得、ハローワークや採用面接への同行、さらに就労開始後の職場定着に至るまで、個別のニーズに対応したきめ細やかな支援を行います。



心理教育プログラム

心理教育プログラムでは、疾患の概要や治療方法・経過に対する理解を深め、今後の日常生活での対処法、再発防止を学びます。また、同じ疾患を抱える仲間との話し合いを通してお互いを高め合う教育リハビリテーションです。当院では、うつ病、双極性障害（双極症）、統合失調症、依存症など、疾患や症状に応じたプログラムを、入院中から退院後にかけて「切れ目なく」運営しています。



心理教育プログラム一例（以下は入院・外来の患者さんを対象としています）

うつ病・双極性障害（双極症）プログラム

はっぴーグループ

うつ症状や治療について理解し、認知行動療法や対人関係法に基づいたストレス対処方法や再発予防の方法を学ぶプログラムです。

すまいるグループ

双極性障害（双極症）に関する正しい知識や対処法を学び、気分を上手にコントロールするコツを身につけ、再発を予防することを目指します。

うつと不安の認知行動療法の統一プロトコール（標準治療）

うつや不安など感情への新しい接し方を学び、実践的に身につけるプログラムです。外来患者さんのみ参加可能です。

統合失調症プログラム

ピーナッツ

統合失調症の理解や対処法などをグループワーク中心に学びます。患者さん同士でロールプレイやホームワークなどを行い、ストレス対処法や問題解決技法などを身につけ、再発を予防することを目指します。

依存症プログラム

HIKARPP（ヒカープ）

お酒・薬物・ギャンブルなどの依存症について学び、孤立を避けより健康的に楽しく生きることを目指し、だれもが安心して何でも話せる居場所を提供しています。また、地域の自助グループ等で、回復の道を歩んでいる方々の体験を聴く機会も設けています。

専門スタッフによるチーム医療

当院では、多職種の専門スタッフが、それぞれの専門性を基に治療のステージに合わせたチーム医療を行い、退院後も患者さんが安心して地域生活を送るための治療・福祉サービスを提供しています。



精神科医

精神科医は主に精神症状に対する薬物療法や精神療法を担当します。精神療法とは、患者さんの気持ちを受け止め、生活上の課題を明らかにし、生活向上のためのアドバイスをを行います。

内科医

内科医は、内科疾患を有している患者さんに、身体状態の検査・治療を行います。精神科医と協力しながら、患者さんを身体的な側面でサポートしています。



看護師・准看護師

患者さんを近くで支え、精神症状や身体症状を観察、確認することで症状の全体像を把握し、病気や症状への対処法を提案します。

看護補助者

看護師をサポートし、患者さんが安心して入院生活を送れるよう入院生活面での介助業務を行います。

薬剤師

患者さんやご家族にとって安心かつ安全な薬物治療が行われるよう、薬剤整理や服薬指導などに取り組みます。

作業療法士

心理教育プログラムに加え、病棟での集団プログラムの運営を行っています。入院生活で生活の基礎を学び、退院後に精神科デイケアで実生活のスキル向上のための支援を行います。

精神保健福祉士

生活上の悩みや経済的な問題など、日常生活上に生じる問題の解決をサポートしています。

公認心理師

心理検査、集団プログラムの運営を行い、病気や症状を改善するお手伝いをします。

臨床検査技師

血液などの成分を検体検査する他に、脳波や光トポグラフィ検査などの生理検査を行っています。

診療放射線技師

レントゲン、CT、MRIなどを行っています。その他、画像診断の補助業務なども行っています。

管理栄養士

入院中の食事について、症状に合わせて栄養バランスのとれた献立を作成するほか、食生活に関する相談や栄養指導を行います。

調理師・調理員

医師、看護師らと共に、患者さんの症状や治療方針に合わせた病院食を提供しています。

事務

受付・会計業務を行う医事業務のほか、医師の事務作業補助を行うメディカルアシスタント業務、様々な部署間の橋渡し役となる一般事務業務を行っています。



地域生活支援について



住み慣れた街で生活をするために

草津グループの地域生活支援体制は、単に障害のサポートをし、現状の生活を維持するためだけに行っているわけではありません。患者さんの現在の生活を支えながら、「将来の夢」の達成に向けて、社会生活の充足度や満足度をより向上させるための支援を行っています。退院後は、患者さんの夢を大切にしながら、関連事業所とともにサポートを行います。また、生活に関する困り事や悩み事があればいつでも相談に応じられる窓口や体制も備えています。

各種窓口のご紹介

医療福祉相談室

本館3階

精神保健福祉士（または社会福祉士）が、受診や入院に関すること、それにともなう経済面等、生活全般に関する相談に対応しています。入院中は退院後の生活に向けての支援や、生活全般の不安や悩みの解消に努めます。外来担当も配置しており、患者さんやご家族の様々な悩みを継続的にサポートします。

広島市受託事業

本館3階

広島市西部認知症疾患医療センター

認知症の専門機関として、「鑑別診断」「初期対応」「周辺症状や合併症の対応」など、認知症に関する支援を中心にを行っています。また、地域の関係機関と協議会や研修会の開催を行っています。

お問い合わせ先：082-270-0311

地域連携室

本館3階

他院から紹介された患者さんを受け入れ、当院入院中の患者さんの他院への紹介も行っています。看護師中心の部署で身体合併症にも対応し、切れ目ない医療サービスを受けられるよう調整を行っています。

広島市受託事業

東館1階

広島市西区障害者基幹相談支援センター

地域の相談支援の拠点として総合的な相談業務及び成年後見利用支援事業を実施しています。さらに、地域の実情に応じて、地域移行・地域定着や相談支援体制の強化の取り組みを行っています。

お問い合わせ先：082-270-1249



草津グループのご案内

専門のソーシャルワーカーが、自分らしく地域で安心して生活を送ることができるように、就労や日常生活の支援を行います。

相談支援 ここコンシェル

相談支援専門員（精神保健福祉士、社会福祉士等）が、ご本人やご家族等から日常生活上のよろず事相談をお受けします。



計画相談支援

障害福祉サービスを利用する方を対象に、一人ひとりに合わせた「サービス等利用計画」を作成します。

障害児相談支援

障害児通所支援を利用する方を対象に、一人ひとりに合わせた「障害児支援利用計画」を作成します。

地域移行支援

精神科病院や障害者支援施設から地域生活に移行するために、住居の確保や障害福祉サービス事業所の体験利用をサポートします。

地域定着支援

地域でひとり暮らしをしている方を対象に、常に連絡が取れる体制を確保し、緊急に支援が必要な際に、訪問や相談などの必要なサービスを行います。

お問い合わせ先 082-278-1294

生活訓練

引きこもりがちな生活からの自立のため、生活向上を目的とした訓練を行います。精神科デイケアとは異なり少人数のため、緊張して疲れやすい方にも参加しやすいグループ活動になっています。

宿泊型自立訓練

一人暮らしの自信をつけるため、夜間の住まいの場を提供し、自立に向けた訓練を行います。また、家族から離れて自立した生活をした方や生活技術を身に付けたい方も利用可能です。

短期入所（ショートステイ）

自宅において、介護を受ける事が一時的に困難となった場合や、現在の生活環境から一時的に離れて休養をとりたい時などに短期間入所することができます。

お問い合わせ先 082-279-5004

自立訓練（生活訓練） ここリビング

炊事・洗濯・掃除などの一人暮らしのための基本的な日常生活の訓練や、他の利用者さんやスタッフとの関わりを通して、一人で生活する自信をつけるための訓練施設です。



訪問看護ステーション こころーれ

精神疾患やこころのケアが必要な方に対して看護師や作業療法士などの専門職が自宅を訪問し、薬や病状の管理・日常生活のサポートを行うサービスです。



病状の観察

血圧測定やコミュニケーションを通して病状の観察を行います。

服薬管理

病状の悪化や再発を予防する為に、薬の効果の説明と正しい服薬方法の支援を行います。

日常生活援助

生活リズムを整え、病状の悪化予防のための助言を行います。

サービス調整

相談窓口の案内や、福祉サービス等の社会資源の利用にむけた調整等を行います。

家族のサポート

患者さんとご家族が良好な関係を築くために、疾患や症状について情報提供等を行い、関係調整を行います。

拠点一覧・お問い合わせ先

| | | |
|-------------------------|-------------------------|--------------------------|
| こころーれ草津 082-277-2062 | こころーれ古市 082-831-0666 | こころーれ廿日市 0829-32-3216 |
|-------------------------|-------------------------|--------------------------|

就労移行支援

就職活動支援から採用後の職場への定着支援まで継続的なサポートを行います。就労準備に必要な各種プログラムをはじめ、個別的な支援、職場実習の機会などを提供しています。

就労継続支援B型

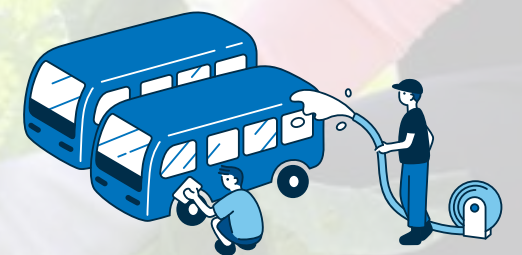
福祉的就労を通じて、日常生活の安定したリズムづくりや就労に向けた意欲や体力を高めていきたい方を対象に、様々な作業を通じて訓練を行っています。

拠点一覧・お問い合わせ先

| | |
|-----------------------|---------------------------|
| ここジョブ 082-277-1279 | ここジョブ草津本町 082-961-6991 |
|-----------------------|---------------------------|

就労移行支援・就労継続支援B型 ここジョブ

働きたい気持ちはあるけど自信がない方、「自分にはどんな仕事ができるのだろう」と悩んでいる方、そんな皆さまの「働きたい」を応援する施設です。



館内設備と取り組み



CT・MRI

CT（コンピュータ断層撮影）とMRI（磁気共鳴画像診断）の検査機器を完備しています。CTはX線を利用し、MRIは磁石と電波を利用して体内の状態を断面図化する検査です。

光トポグラフィー

光トポグラフィー検査は、人体に影響の少ない近赤外光を用いて脳内の血流量の変化パターンを測定する検査です。脳の活動状態をグラフ化することで、疾患の見逃し防止や正確な診断のための補助に役立ちます。2009年に厚生労働省より先進医療の承認を受け、2014年にうつ症状の鑑別診断補助として保険適用となりました。



rTMS

rTMS（反復経頭蓋磁気刺激療法）は、専用の医療機器を用いて、脳の特定の部位に繰り返し磁気で刺激することで脳の活動を変化させ、うつ病の症状を緩和する治療です。2008年にアメリカで承認され多くの治療効果をあげている治療方法で、日本では2019年に保険適用となり、国内での認知度も高まっています。

m-ECT

m-ECT（修正型電気けいれん療法）は、全身麻酔をした上で、脳を電気で刺激し症状を改善させる治療法です。薬物療法で効果が得られない場合や緊急性の高い場合に導入され、様々な疾患に対して効果を発揮しています。従来は危険なイメージを持たれがちでしたが、現在は安全性や有効性が認められ、世界中で広く普及しています。



概要

| | |
|--------|---|
| 名称 | 医療法人社団更生会 ころろホスピタル草津 |
| 所在地 | 〒733-0864 広島市西区草津梅が台10番1号 Tel 082-277-1001 Fax 082-277-1008 |
| 理事長 | 佐藤 悟朗 |
| 院長 | 佐藤 悟朗 |
| 創業 | 昭和8年4月 |
| 診療科目 | 精神科、心療内科、神経内科、内科 |
| 定床数 | 429床（精神科） |
| 医療機器設備 | CT（コンピュータ断層撮影装置）、MRI（磁気共鳴画像診断装置）、X線テレビ装置、超音波診断装置、心電計、脳波測定装置、rTMS（経頭蓋磁気刺激装置）、m-ECT（修正型電気けいれん療法機器） |
| 職員数 | 職員数 667名（2025年2月1日現在） |
| 施設の認定 | 日本医療機能評価機構 認定病院 精神科救急医療施設 精神科応急入院指定病院 日本老年精神医学会 認定施設 日本精神神経医学会 研修施設 臨床研修指定病院（協力型） |
| 施設の指定 | 広島市西部認知症疾患医療センター 広島市西区障害者基幹相談支援センター |
| 関連施設 | 相談支援 ここコンシェル 訪問看護ステーション ころろれ草津 訪問看護ステーション ころろれ古市 訪問看護ステーション ころろれ廿日市 自立訓練（生活訓練） ころりビング 就労移行支援・就労継続支援B型 ここジョブ 就労移行支援・就労継続支援B型 ここジョブ草津本町 |

